3　事　業　の　概　要

本年度の水道事業は，「仙台市水道事業基本計画（令和2年度～令和11年度）」と，その実施計画にあたる「仙台市水道事業中期経営計画（令和2年度～令和6年度）」に基づき，「水道システムの最適化」，「持続可能な経営」，「関係者との連携強化」に取り組みながら，お客さまが実感できる良好な水質の実現と水道水の安定供給に努めてきた。

配水状況については，年間総配水量が 1 億 2,010 万 7 千立方メートル，前年度比 120 万立方メートル（1.0%）減，年間有収水量が 1 億 1,304 万 6 千立方メートル，前年度比 92 万立方メートル（0.8%）減となり，有収率は前年度より 0.2 ポイント向上して 94.1%となった。

経営面については，アセットマネジメントによる施設の適切な維持管理や老朽化した管路の更新，水需要に合わせた施設の再構築など，経営基盤の強化に向けた取り組みを進めた。

建設改良事業については，配水管整備事業で，配水支管の更新工事などを行い，事業費74億9千万円を支出し，配水管延べ41,693メートルを布設した。また，施設整備事業では，配水施設耐震補強工事や非常用自家発電設備更新工事等の災害対策関連事業に加え，国見水系苦地沈砂池油分計設置工事等の安全対策関連事業などを行ったほか，国見・中原浄水場並びに塩竈市が運営する梅の宮浄水場の統合・共同化に向けた計画策定のための支援業務を委託するなど，事業費33億7千6百万円を支出した。

財政状況については，収益的収支（消費税及び地方消費税抜き）において，総収益276億6千2百万円に対し，総費用236億2千4百万円で，差引40億3千8百万円の純利益となった。

今後は，給水人口が減少局面を迎え，水需要の更なる縮小が見込まれる一方，諸物価の高騰等による事業費の増嵩や，拡張期に集中的に整備してきた多くの施設が更新時期を迎え，建設改良費の増加が見込まれるなど，事業を取り巻く環境はさらに厳しさを増すことが予想される。引き続き，計画的かつ効率的な事業運営に努め，持続可能な経営基盤の強化とサービスの向上を図るとともに，安全で良質な水道水を安定的に供給していくことを通じて，お客さまに一層信頼され，地域社会の発展に貢献できる水道事業の構築を目指していく。